



Asflora 便り - エコ・クリスマス 2017 年 12 月 22 日

Asflora（アマゾン森林友の協会）は、恒例の Natal Ecológico「エコ・クリスマス」行事を 12 月 22 日、ベレン市から 55 kmにあるサンタバルバラ市のエスベジット・リベイロ入植地で行いました。

この行事は、子供たちと共にクリスマスを祝い、身の回りの環境を良くしていくことを願い、みんなで小さな森づくりを続けています。

今回の催し、地元の Moldura Norte 社（月敦社長）、日本学生海外移住連盟（学移連）OB 会、Rodbens 社、Heineken 社従業員のご支援を得て、エスベジット・リベイロ婦人会、エスベジット・リベイロ環境農業者協会（ミランダ会長）の全面協力があって実現しました。

この日、8 時の集合時間に遅れた人が多かったので、集まったのは 100 人程度かなと思っていましたが、地元婦人会からの報告では、子供（0～11 歳）98 人、青少年（12～18 歳）48 人、大人 73 人の計 219 人とのことでした。アマゾニア農大（UFRA）からモレイラ先生、在ベレン日本国領事事務所の所長濱田圭司領事、サンタバルバラ市の保健衛生部長のラウシィ氏、ハイネッケン社従業員代表 4 名（クリスマスプレゼントを従業員仲間で集める）の方々も招きに応じてくれました。

Asflora のクリスマス行事は、子供たちに少し環境教育をしています。Asflora 森の劇から、酔っ払いと自然の母（Mãe Natureza）的一幕を披露しました。



前頁の写真は、酔っ払いがゴミを散らかしてしまい、自然の母と子供たちから注意を受ける場面です。酔っ払いと自然の母との愉快的やり取りから、火の始末、森の役割などについても、子供たちはすんなり学んでしまいます。大人も結構楽しんでくれた一幕でした。



↑ 森の母に率いられて、植樹地に移動。



↑ 道路の脇に見えるのは、アグロフォレスト畑。



↑ 植え方の説明、しっかり聞いてくれている。



↑ 地元婦人会ジョエルマ会長



↑ 佐藤と濱田圭司領事。



植樹には、在来種苗 51 樹種、千本が用いられました。セードロ、イペー、マタマタ、ロウロなどの樹木に加え、アサイ椰子、バカーバ椰子、バクリ、カカオ、クプアスー、タペレバなどの椰子や果樹も混植しています。



↑ 緑のサンタ登場、アマゾニア農大のモレイラ教授が引き受けてくれ、立派なサンタでした。 右側の赤ん坊を抱いた母親は、2008 年からいつも植樹に参加していた子でした。



Feliz Natal!

2017 年 12 月 24 日

ASFLORA 代表 佐藤卓司 (文)